

都市再生整備計画 春江地区

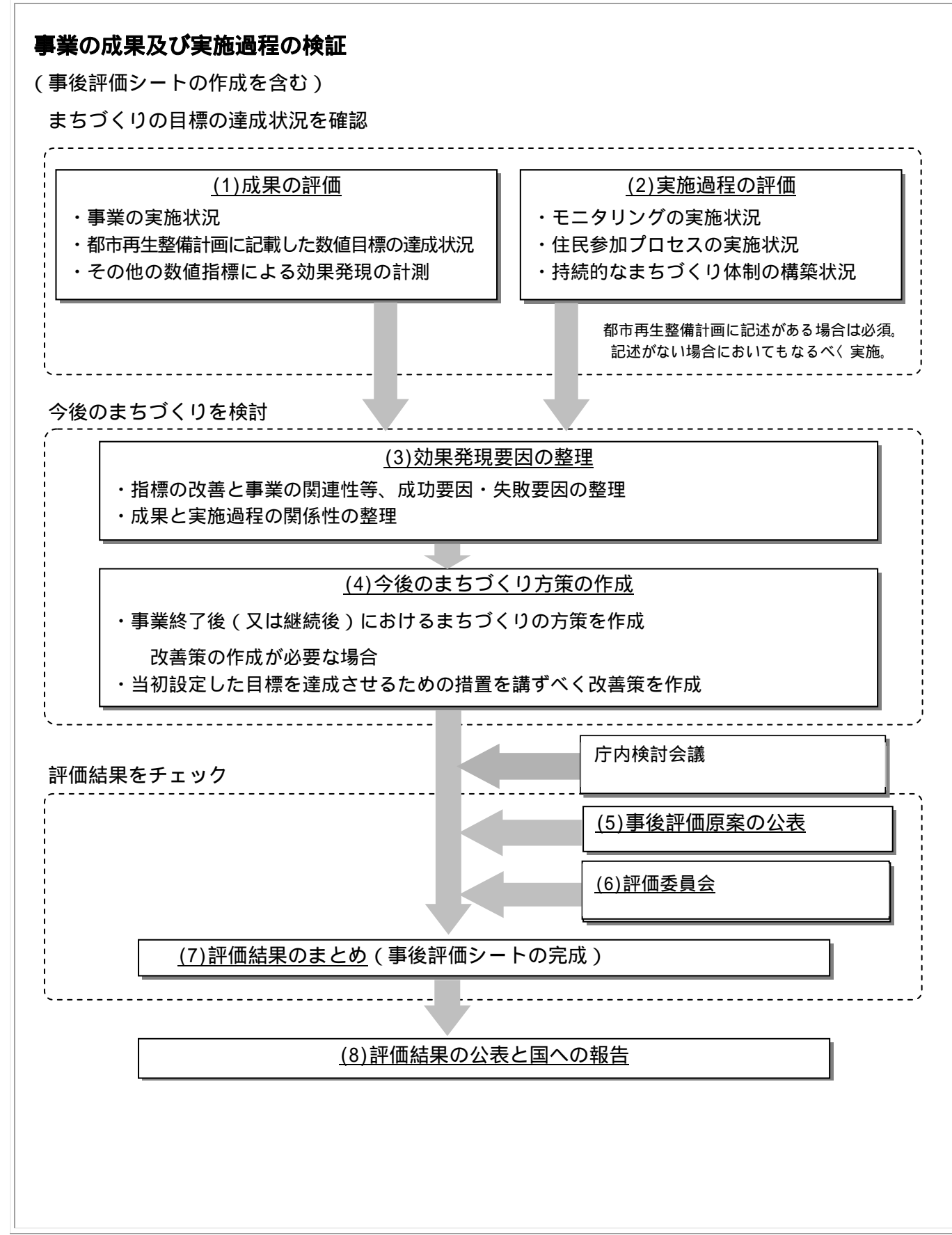
事後評価の概要

1 . 事後評価制度の概要	P	1
2 . まちづくりの経緯（都市再生整備計画の概要）	P	2
3 . 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）	P	4
4 . 効果発現要因の整理	P	8
5 . 今後のまちづくり方策の検討	P	9

令和4年3月
坂井市 都市計画課

1. 事後評価制度の概要

<p>事後評価の位置づけ</p>	<p>事後評価はP D C Aサイクルによる事業評価制度の一環として実施されるもので、その後のまちづくりに活かすための作業である。</p> <p>・まちづくりの課題 ・まちづくりの目標 ・目標を定量化する指標・数値目標 ・目標を達成するために実施する事業</p> <p>・課題は解決されたか？ ・目標は達成できたか？ ・計画通りに実施できたか？</p> <p>・改善すべき点はあるか？ ・効果持続のために何をするか？</p> <p>◆まちづくりの効果を事業後も持続させる！ ◆成功体験、失敗経験を次のまちづくりの教訓に！</p>
<p>事後評価の目的</p>	<p>事業がもたらした成果等を客観的に分析して、今後のまちづくりを適正な方向に導くこと、及び事業の成果を住民にわかりやすく説明することを目的とする。</p>
<p>事後評価の内容</p>	<p>まちづくりの目標の達成状況等の確認！ まちづくりの目標の達成状況、および実施過程の検証を行う。</p> <p>今後のまちづくり方策の検討！ まちづくりの目標の達成状況を踏まえ、事業効果の発現要因を整理し、今後のまちづくり方策を検討する。</p> <p>事後評価のチェック！ 事後評価の透明性・合理性・客観性を担保するために、評価結果を市民に公表し、意見を適切に反映すると共に、第三者で構成される「評価委員会」を開催し、その審議を経る。</p>
<p>評価委員会の目的</p>	<p>事後評価等が適切に遂行されているかを確認し、意見を頂く。 今後のまちづくり方策等について意見を頂く。</p>



2. まちづくりの経緯（都市再生整備計画の概要）

【計画期間】

平成 26 年度～平成 30 年度

【まちづくりの経緯及び現況】

本地区は、明治時代から地場産業として春江ちりめんなどの絹織物業により繁栄し、多くの工場、そこで働く人々で発展してきました。しかし、現在はモータリゼーションの進展と共に主要地方道福井金津線沿線に商業施設の集中し、古くからある街では賑わいが薄れてきている状況です。

このような状況を踏まえ、「坂井市都市計画マスタープラン（平成 20 年 4 月）」などの上位計画では、「春江駅と文化の森を活かした子育てにやさしい市街地づくり」と整備目標を掲げ、磯部川沿いの既存の歩行者道路や公園を活かしながら、春江駅、文化の森、小学校、保育園等の子育て関連施設および病院、行政施設を歩行者、自転車道で結ぶことが示されました。

本地区には拠点施設として春江総合支所、春江中公民館、文化の森が存在し、JR 春江駅からその拠点施設への快適な交通環境及びネットワークの整備を図ります。また春江中公民館の整備をすることにより失われつつある市民同士の連帯感の強化や市民活動、市民交流を促進させ、地域活性化を図ります。

【まちづくりの課題】

課題 1：JR 春江駅舎の機能強化、コミュニティバスの駅前広場の乗り入れなどによる交通結節機能の強化、歩行者、自転車、自動車の安全かつ円滑な交通対策の整備

課題 2：地域活力向上に向け、地域住民の交流の中心となる交流施設の整備

課題 3：JR 春江駅を拠点とした快適な交通環境、ネットワークの整備

【まちづくりの目標】

大目標：子育て世代から高齢者までが安心、快適に暮らすことができる温もりのある住環境づくり

目標 1：JR 春江駅舎及びその周辺における交通結節機能の強化、利便性の向上

目標 2：人々の交流やふれあいを創出する都市拠点の形成

目標 3：拠点間を結ぶ移動して楽しい交通ネットワークの創出

【目標を定量化する指標】

指標 1：JR 春江駅舎及び周辺施設に対する満足度

指標 2：地域交流センターの利用人数（春江中コミュニティセンター）

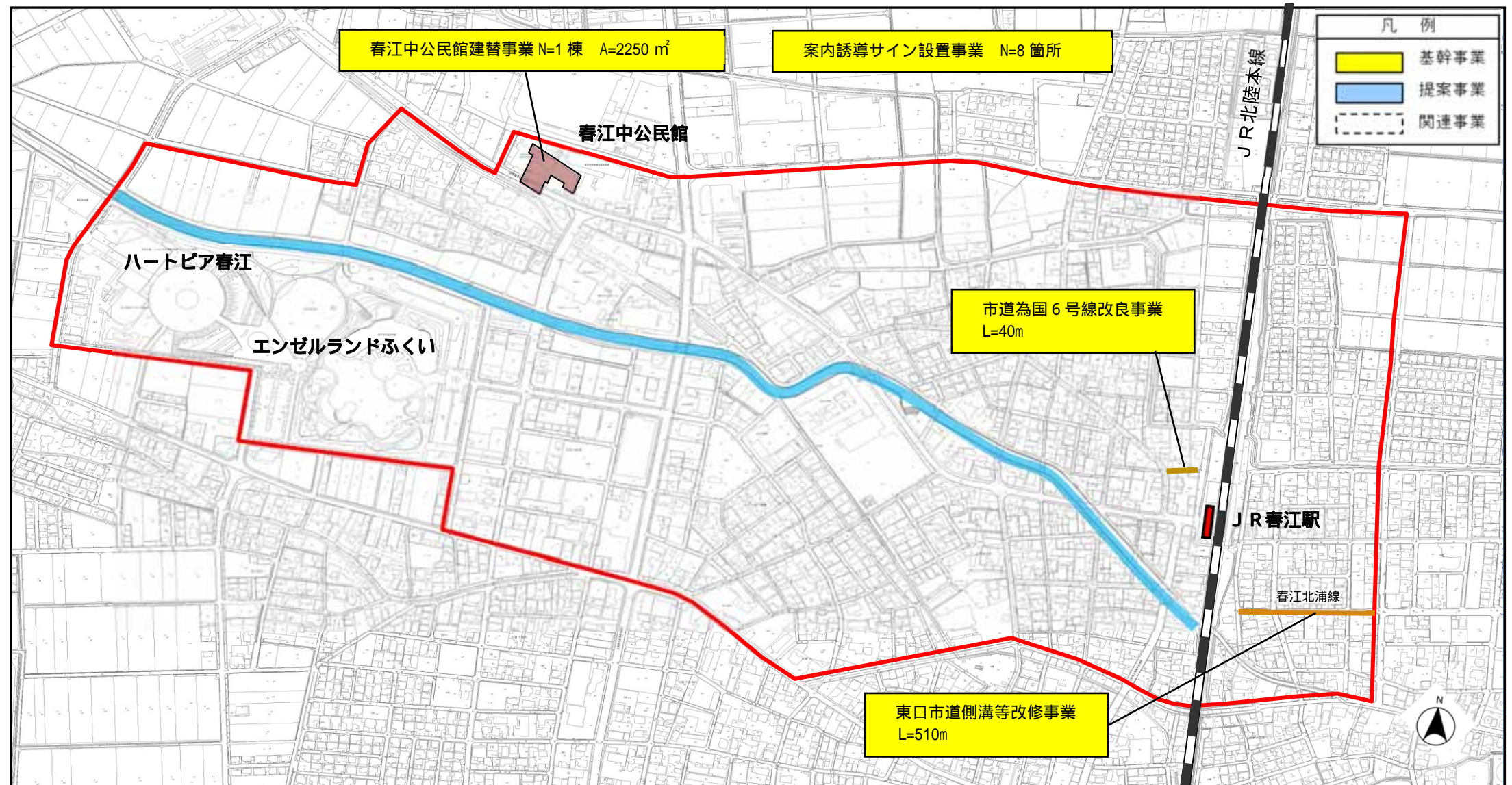
指標 3：コミュニティバス利用者数

【計画区域の整備方針】

方針 1：JR 春江駅舎及び周辺における交通結節機能の強化、拠点性の向上

方針 2：人々の交流やふれあいを創出する拠点整備

方針 3：拠点間を連絡する交通ネットワークの整備

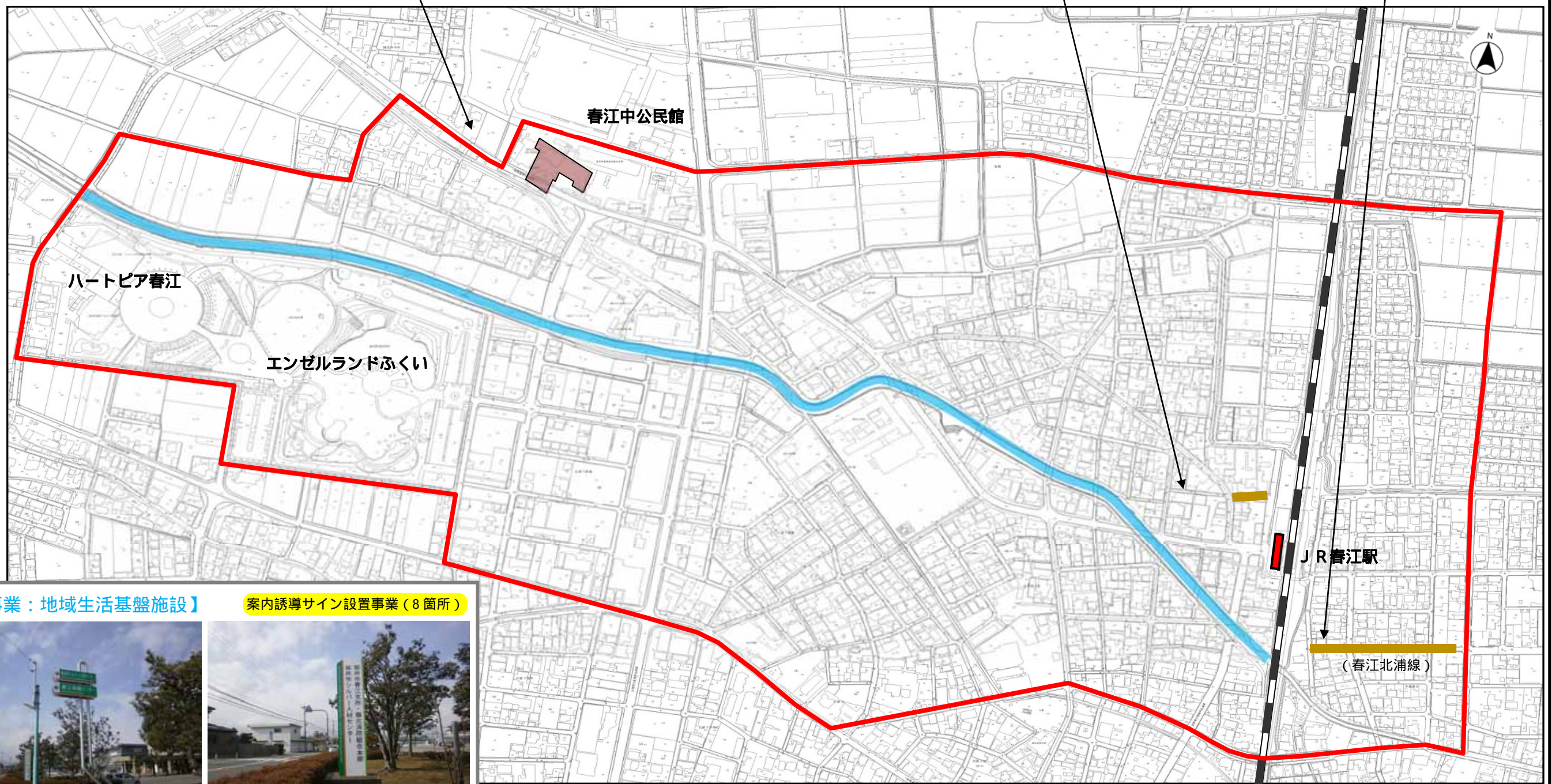


事業内容

【基幹事業：高次都市施設】



【基幹事業：道路】



【基幹事業：地域生活基盤施設】

案内誘導サイン設置事業（8箇所）



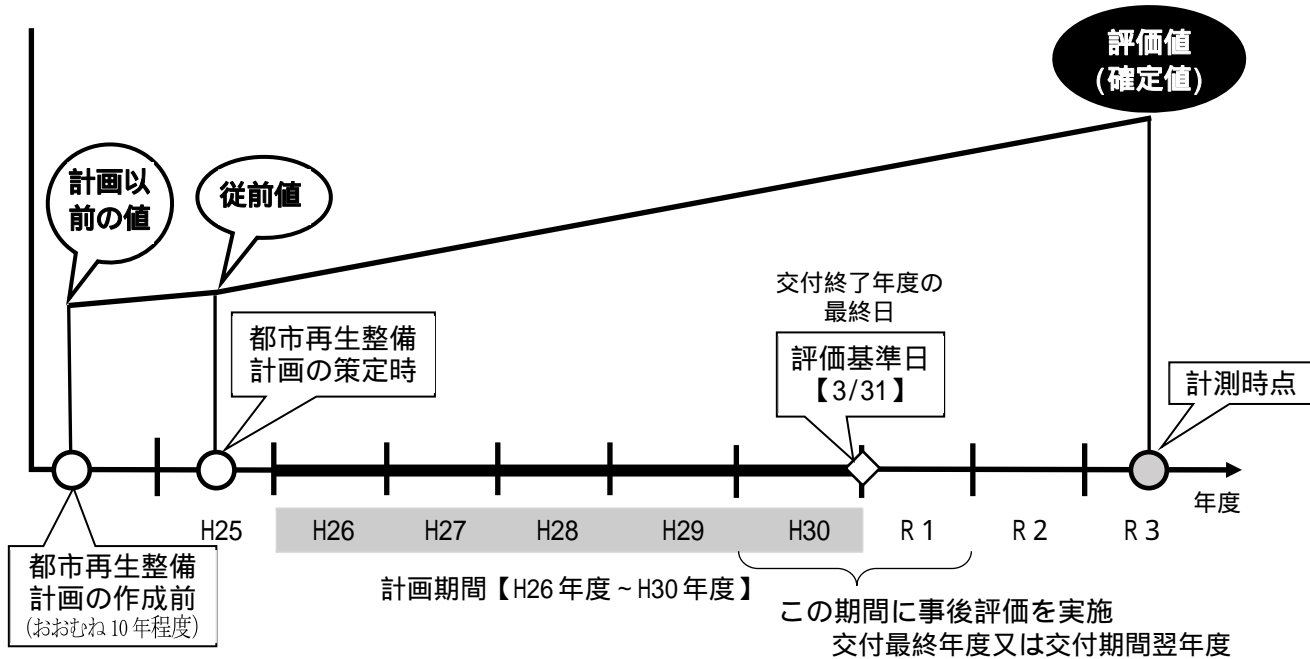
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）

目標達成度の評価の基準

指標	単位	従前値 (基準年度)	目標値 (基準年度)	評価値 (確定値)	目標達成度
1. JR春江駅舎及び周辺施設に対する満足度	点 (%)	25 (H24年度)	50 (H30年度)	25 (R2年度)	
2. 地域交流センター利用人数 (春江中コミュニティセンター)	人/年	24,400 (H24年度)	28,000 (H30年度)	85,000 (H30年度)	○
3. コミュニティバス利用者数	人/年	3,444 (H23年度)	3,800 (H30年度)	1,597 (H30年度)	×

目標達成度の評価の基準	達成度
評価値（確定値）が目標値を上回った場合	
評価値（確定値）が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	
評価値（確定値）が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

評価基準日の考え方

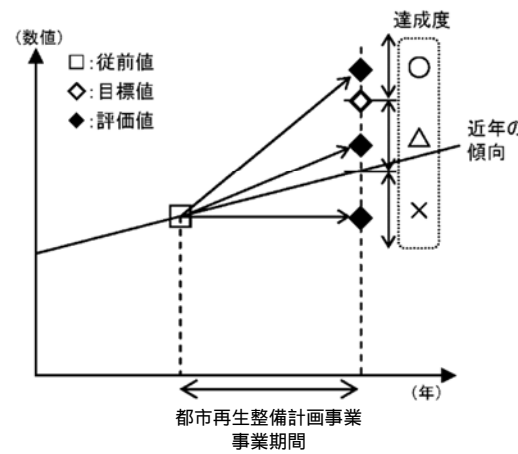


【参考：目標達成度の考え方】

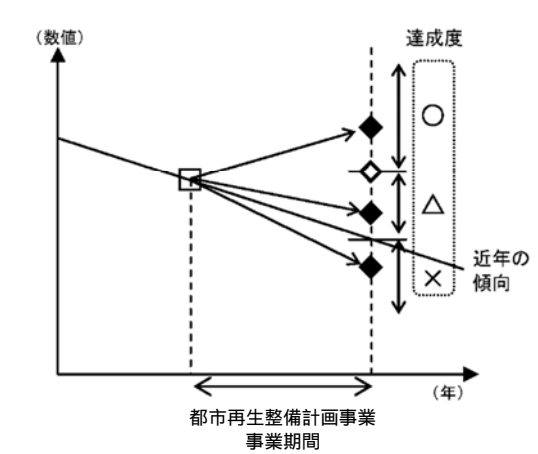
- ・数値目標が事後評価の時点で達成されたか否かは、「達成度」をもって検証する。
- ・「達成度」は、○、△、×の記号により評価を行うが、その概念は下図に示す通り、目標値（○）と評価値（△）との間の差の大きさ（絶対値）と位置関係（目標値よりも上か下か）により市町村が判断するものとする。

評価の基準	達成度
評価値が目標値を上回った場合	
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

■近年の傾向が増加基調の指標の場合の例



■近年の傾向が減少基調の指標の場合の例



- ・なお、○、△、×を判定する目安として、次の式による「達成指数」を参考にしてもよいです。

$$\text{達成指数} = \frac{\text{評価値}}{\text{目標値}}$$

評価値：事後評価に用いる値、目標値：事後評価時に目標として設定した値

達成指数が1の場合に目標が達成され、1より離れるに従い、目標を達成している（判定 = ○）又は目標を達成していない（判定 = △又は×）という意味になります。

指標の性格や目標の設定の仕方により達成指数の解釈が異なるので、達成指数によって目標の達成・未達成を判別する場合には注意が必要です。例えば、近年増加基調である事故発生件数の減少を指標として設定している場合は、値が1よりも小さいほど目標を大きく達成していると解釈できます。

目標値が0の場合等においては、適宜、式を定義してよいです。

- ・この「達成指数」は、あくまでも市町村が「達成度」（○、△、×）を判定するための参考となる考え方であり、必ずしも指標の数値を添付様式に記入したり、公表する必要はありません。「達成指数」を用いて判定を行うかどうかについても市町村の任意です。
- ・都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況、数値目標以外の効果発現状況の結果は、今後のまちづくり方策の作成の中で改善策を追加作成すべきか否かの判断材料となります。

（出典：都市再生整備計画事業評価の手引き 平成29年3月策定 P7-11（国土交通省））

指標 1：JR 春江駅舎及び周辺施設に対する満足度

従前値 (H24 年度)	目標値 (H30 年度)	評価値 (R2 年度)	目標達成度
25 点(%)	50 点(%)	25 点(%)	

【指標の定義】

JR 春江駅舎及び周辺施設の利便性に対する満足度 (JR 春江駅利用者アンケート調査)

【目標の達成度に関する検証】

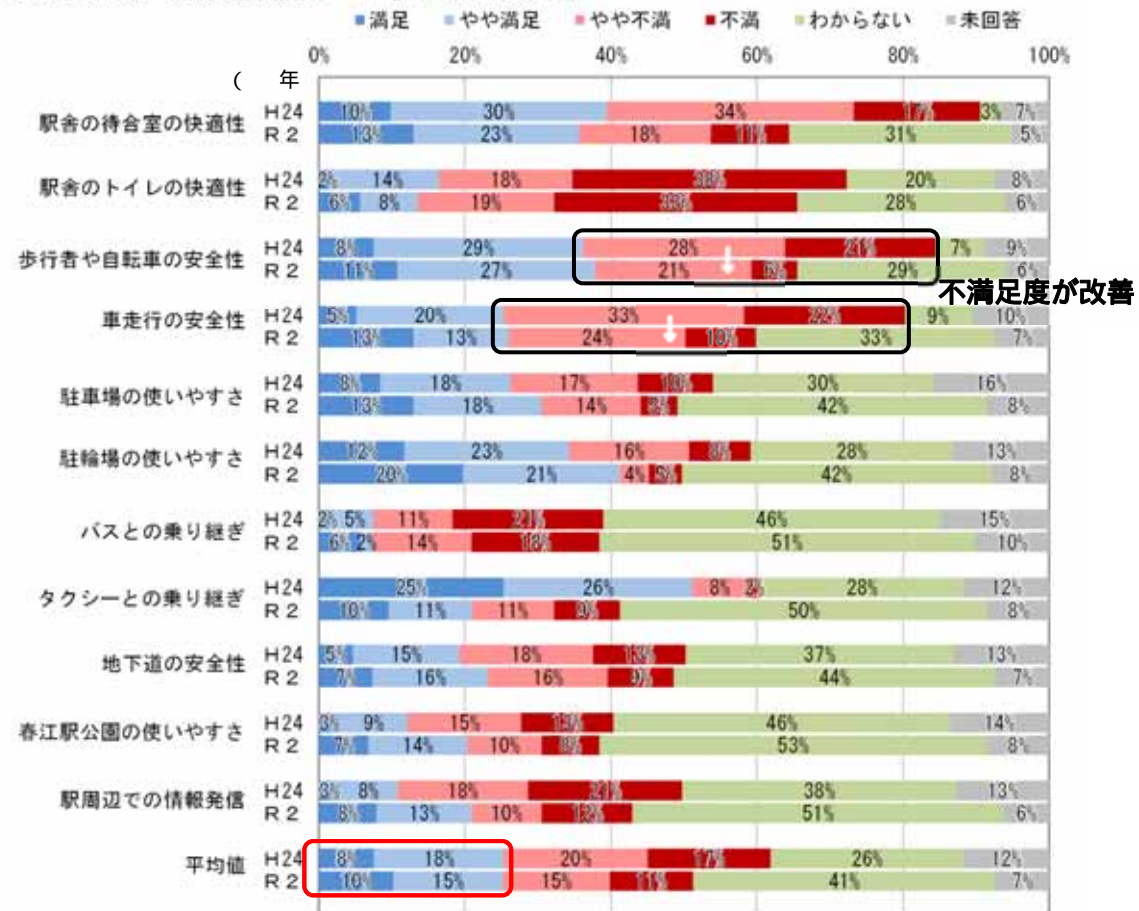
令和 2 年度に実施したアンケート調査では、JR 春江駅舎及び周辺施設に対する満足度は 25 点 (%) となり、目標達成には至りませんでした。

しかしながら、平成 24 年度に実施したアンケート調査結果と比較すると、「歩行者・自転車の安全性」や「車走行の安全性」について、「不満」「やや不満」と回答した人の割合が減少しています。

これは、道路拡幅による行き止まり道路の解消や歩道整備、道路側溝整備によるもので、駅周辺の道路交通環境が改善され、安全性や利便性の向上に一定の効果があったといえます。

【目標の達成度「」の理由】

令和 2 年度に実施したアンケート調査の JR 春江駅舎及び周辺施設に対する満足度が目標値 (50 点 (%)) に達していないものの、「歩行者・自転車の安全性」や「車走行の安全性」に対する不満足度が改善がみられるため、目標達成度を「」としました。



JR 春江駅舎及び周辺施設に対する満足度 (従前値・評価値)

グラフ内の数値は小数点で四捨五入しており、平均値 (H24) における「満足」「やや満足」の割合の合計と従前値の値は異なっています。

指標 2：地域交流センターの利用人数

(春江中コミュニティセンター)

従前値 (H24 年度)	目標値 (H30 年度)	評価値 (H30 年度)	目標達成度
24,400 人/年	28,000 人/年	85,000 人/年	

【指標の定義】

地域団体の地域交流センター (春江中コミュニティセンター (春江中公民館)) を利用する人数

従前値、確定値は、実績値 (下記のグラフを参照) を丸めた数値となっています。

【目標の達成度に関する検証】

これまで、春江中部地区の地域交流の拠点として市民に親しまれてきた春江中公民館は、平成 27 年 8 月に建替工事 (春江中公民館建替事業) が実施され、春江中コミュニティセンターとして生まれ変わりました。

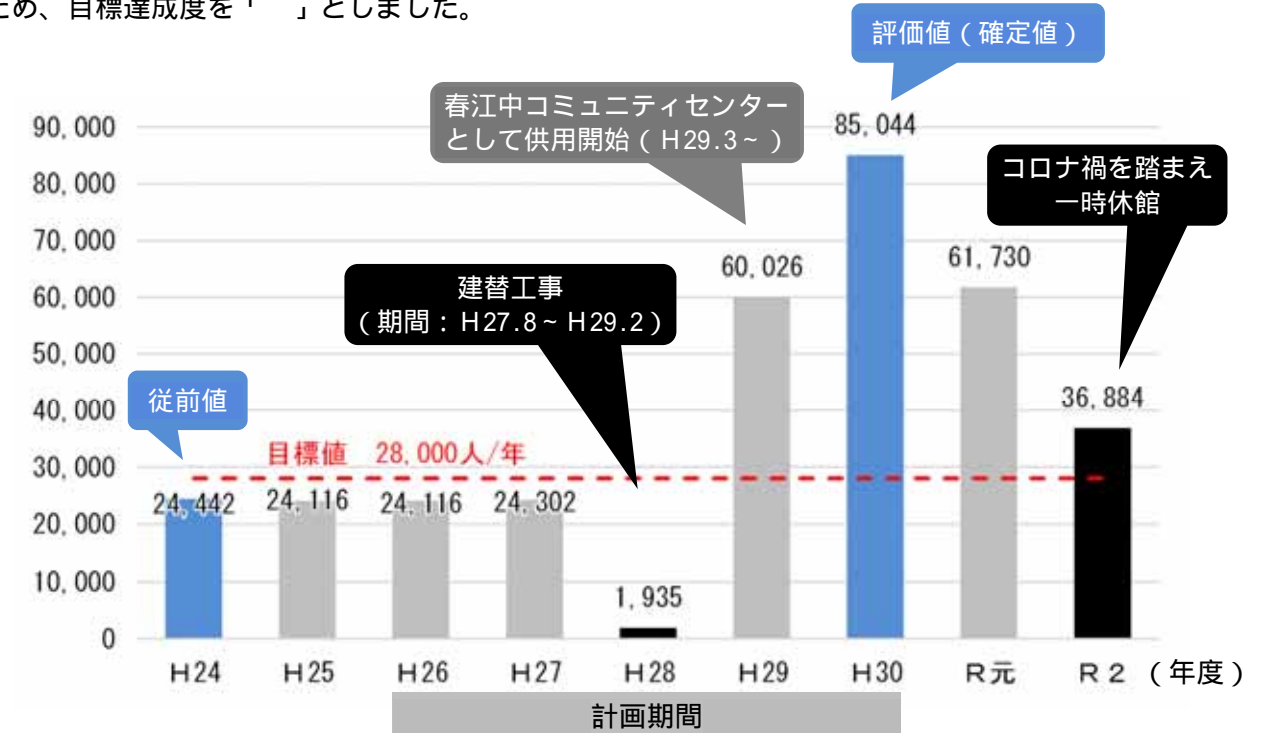
春江中コミュニティセンター (春江中公民館) の利用人数は、従来の 24,000 人/年台から大幅に増加し、評価年度である平成 30 年度では 85,044 人/年と目標値を大幅に上回る結果となりました。

これは、公民館のリニューアル (バリアフリー化・コミセン化・備品の設置等) によって、春江中コミュニティセンターを核とした地域コミュニティ活動が活性化 (利用団体数が増加) したことによるものです。また、誰もが自由に利用できる魅力的な空間 (コミュニティカフェ milieu など) が整備され、地域住民の日常的な利用が促進されたことや、受益者負担適正化に伴って使用料金も安くなったこと等も利用者数の増加につながっています。

令和 2 年度は、コロナ禍におけるコミュニティセンターの一時休館や利用人数制限等の影響はあるものの、目標値以上の利用人数を維持しています。

【目標の達成度「」の理由】

平成 30 年度の春江中コミュニティセンターの利用者数が、目標値の 28,000 人/年を大幅に上回ったため、目標達成度を「」としました。



指標3：コミュニティバス利用者数

従前値 (H23年度)	目標値 (H30年度)	評価値 (H30年度)	目標達成度
3,444人/年	3,800人/年	1,597人/年	×

【指標の定義】

春江駅停留所におけるコミュニティバスの乗降客数
(対象路線：丸岡春江ルート、春江北部東部ルート、春江西部中部ルート)

【目標の達成度に関する検証】

春江駅停留所におけるコミュニティバスの利用者数は、減少傾向となっています。これは春江工業高校の閉校（平成28年3月）に伴って、春江駅からコミュニティバスを利用して通学していた学生が、平成25年度から平成28年度にかけて、徐々に減少していったことが要因と考えられます。

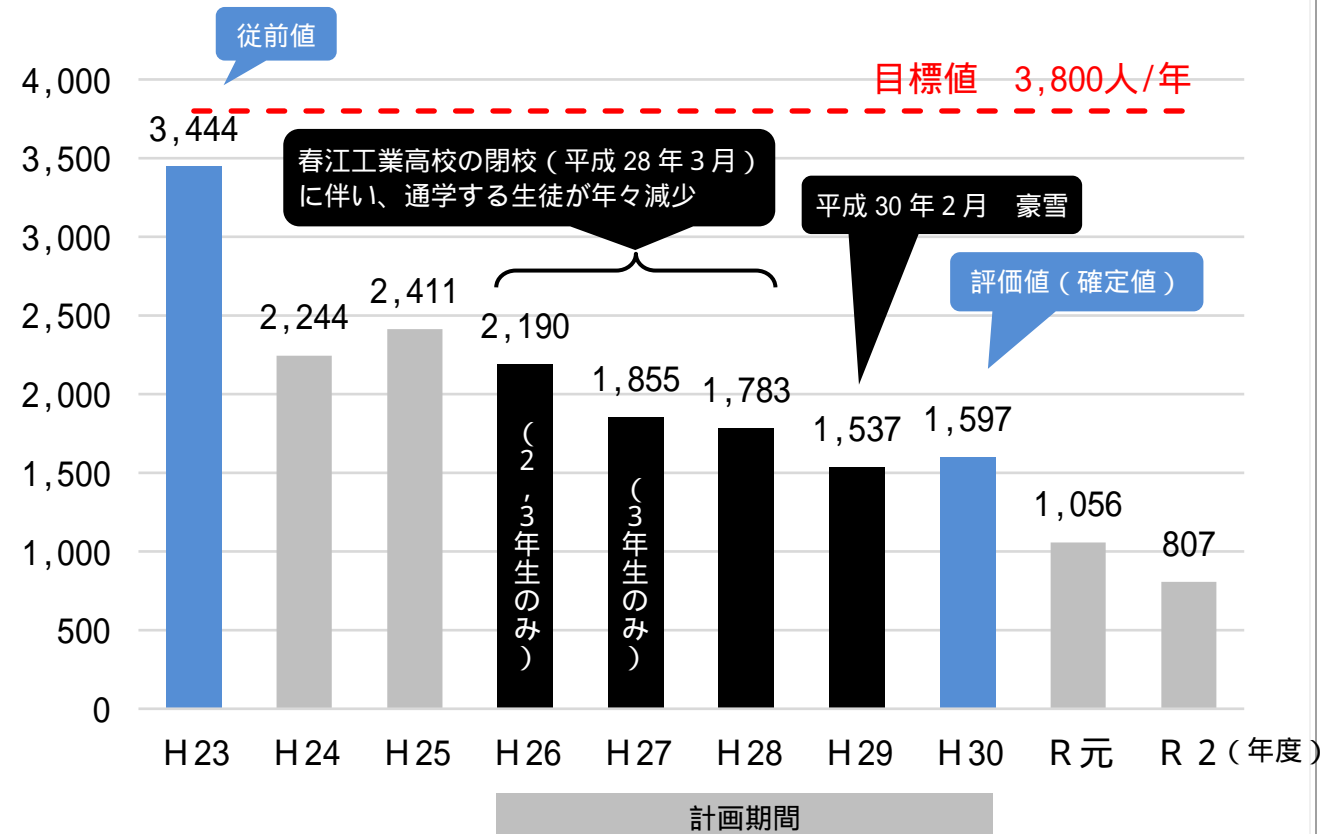
また、平成30年2月（平成29年度）には、記録的な大雪による大規模な交通障害が発生するなど、近年の異常気象の多発化等もコミュニティバスの利用者数の減少に影響しているものと考えられます。

【目標の達成度「×」の理由】

平成30年度のコミュニティバス利用者数が、目標値（3,800人）に達しておらず、さらに、従前値（3,444人）よりも減少しているため、目標達成度を「×」としました。

但し、平成24年度以降のコミュニティバス利用者数は乗客のみをカウントしており、実際のコミュニティバス利用者数の減少推移は下図よりも緩やかになっていると思われます。

なお、上記については目標達成度の評価結果に影響はありません。



実施過程の評価

春江中コミュニティセンターの建替に向けた協議会の開催

公民館からコミュニティセンターへ移行することを契機とし、新たな施設の基本的な整備方針や、必要となる機能等について意見交換が行われました。

【開催】

- ・平成25年度、平成26年度 合計4回開催

【検討メンバー】

- ・春江中部まちづくり協会、春江中公民館利用団体の代表者、利用者、市議会議員



意見交換会の様子

【主な意見】

- ・イベント時の外洗い場として、玄関などに水栓が欲しい。
- ・大ホールのステージを今より少し大きくしてほしい。 など
- ・これまでの公民館は主に高齢者が利用していたが、今後は若者も来るような工夫が必要である。
- ・ガラス張りの外観について、維持管理費がかさむのではないか。
- ・地域活性化の拠点施設として恥ずかしくない公民館(コミュニティセンター)を建てないといけない。

【春江中公民館の建替工事の主なスケジュール】

日程	内容
平成25年10月～11月	意見交換会（議員、区長、まち協、利用者等）
平成26年3月	春江中公民館建替基本計画策定（6月配布、閲覧通知等）
平成26年9月～平成27年3月	設計業務
平成26年9月～10月	意見交換会（議員、区長、まち協、利用者等）
平成27年8月～平成29年2月	建替工事
平成29年3月	春江中コミュニティセンター 供用開始

定量的に表現できない定性的な効果発現状況

駅前周辺の土地利用の増進、駅前周辺の生活環境の向上、魅力の向上

- 春江駅周辺では、道路の拡幅や側溝の暗渠化がされる等、駅周辺の交通環境が改善され、当該道路整備が実施された付近では、新築のアパートやコインパーキングなどの新たな土地利用がみられ、駅周辺の住みやすい生活環境や駅前の利便性などが向上しています。



新築のアパート



前払い式コインパーキング（新設）

地域づくり・地域コミュニティ活動の活性化

- 新たにコミュニティセンターとして整備された春江中コミュニティセンターは、「誰もが利用しやすく、立ち寄りやすい」をコンセプトに、従来の公民館としての機能に加えて、カフェスペース（コミュニティカフェ milieu）等が新設され、地域の方が気軽に利用できる魅力的な施設となっています。



コミュニティカフェ milieu



おしゃれで座り心地の良いソファ・ベンチ・スツールと大小テーブル（定員30名）



明るい廊下空間



開放的な調理室



外観 1階の南面 ガラス張り

- また、坂井市食育市民ネットワーク を通じた食育活動や男女共同参画・女性の活躍推進にむけた父親の育児参加を促す取り組みなど、様々な活動が行われています。

坂井市食育市民ネットワーク

坂井市内における「地産地消」「安全な食品」「生活習慣病」「伝統料理」などそれぞれの分野の食育活動に携わる個人・団体が相互に情報交換や交流、活動を通じて、食育活動を広めていくことを目的として設立された団体



「おさかな料理教室」の様子（魚食普及の推進）



NPO法人「親子子育て応援団おっとふぁーざー」による親子運動会の様子

世界の料理体験

8月25日(日)にエジプト料理を、10月10日(日)にメキシコ料理を、11月14日(日)にモンゴル料理を親子で作りました。異文化の話を聞いた後、使ったことのない食材を使い、食べたことのない味を堪能しました。どの料理もとても美味しく世界は広い！と思いました。

ふれあい体力づくり

11月27日(日)に「ふれあい体力づくり」を開催しました。家庭講座では、坂井市の管理栄養士の方をお招きし、いつまでも健康でいるためのポイントアドバイスを受けました。その後、運動講座では、健康運動指導士による簡単な運動をしました。家でも外でもできる運動を覚えていただきました。暑くなってこたつでぬくぬくしていますが、体を動かしていつまでも健康で長生きしましょう。

春江中部まちづくり協議会よりお知らせ

春江中部まちづくり協議会では、一年を通じて様々な講座を実施しています。花壇整備やあいさつ運動、防災点検や料理教室、健康講座など地道に活動中です。チラシ等をご覧になりぜひご参加ください。また、まち協メンバーも随時募集中です。私たちと一緒に活動しませんか。

まち協ではみなさんのアイデアを募集中です！こんなことやあんなことをしてみたい方、やってみたくてどうしたらいいのかわからない方などコミセンへご相談ください。中部地区をより良い地域に、楽しい地域に、安心安全な地域にしていきたいです。お問い合わせは、春江中コミュニティセンターまで (TEL:51-1104)

コミセンからのお知らせ

- 12月11日(金)はコミセン大掃除のため、全館利用できません。ご了承ください。
- 12月29日(水)～1月3日(月)は年末年始休業のため休館となります。1月4日から通常通り、開館します。

4. 効果発現要因の整理

指標名		指標1 JR春江駅舎及び周辺施設に対する満足度		指標2 地域交流センターの利用人数 (春江中コミュニティセンター)		指標3 コミュニティバス利用者数	
目標達成度		2		1		× 2	
種別	事業名・箇所名	目標未達成の影響度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	目標未達成の影響度	総合所見
基幹事業	道路(市道為国6号線改良事業)		令和2年度のアンケート調査によると、JR春江駅周辺は、市道為国6号線改良事業や東口市道側溝改修事業により、「歩行者・自転車の安全性」「車走行の安全性」について、不満足度が改善されました。一方で、「バス、タクシーの乗り継ぎ」などの改善されなかった課題も複数存在し、目標達成には至りませんでした。	-	春江中公民館のリニューアル(バリアフリー化・コミセン化・備品の設置等)に伴い、春江中コミュニティセンターを核とした地域コミュニティ活動が活性化しました。また、地域住民が気軽に利用できる魅力的な空間(コミュニティカフェmilieuなど)が整備されたことで、地域住民の日常的な利用が促進され、利用人数は大幅に増加し、目標値を達成することができました。 整備後も、地域住民交流や地域づくり活動等の様々な取組みが継続的に実施されています。		春江工業高校の閉校(平成28年3月)に伴い、春江駅からコミュニティバスを利用して通学していた学生が、平成25年度から平成28年度にかけて、徐々に減少していったことや、異常気象の多発化等により、春江駅からのコミュニティバスの利用者数は減少傾向であり、目標値を達成することは出来ませんでした。
	道路(東口市道側溝等改修事業)			-			
	地域生活基盤施設(案内誘導サイン設置事業)	-		-			
	高次都市施設(春江中公民館建替事業)	-		-			

1【目標達成度が の場合の影響度の考え方】

- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

2【目標達成度が と×の場合の影響度の考え方】

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- ：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用・改善の方針

- ・駅舎整備や駅周辺整備により、交通結節拠点としての機能を強化し、駅利用者等の利便性の向上及び公共交通の利用促進を推進していく必要があります。駅舎等の整備にあたっては、福井県並行在来線準備株式会社と連携しながら進め、春江駅舎及び周辺施設に対する満足度を高めていきます。
- ・また、更なる満足度の向上に向け、駅に隣接した公園を開放的で安全性が高く快適に利用できる待合空間としてのリニューアルや、春江駅周辺の歩行空間・休憩機能の拡充を図ることで、まちの魅力を高め、住みやすい駅周辺の環境を整えます。

- ・引き続き、地域コミュニティの拠点として、地域づくり活動等を通じた地域の絆の醸成と地域コミュニティの活性化を図っていくとともに、「住民との協働」による地域の特色を活かしたまちづくりを推進します。

- ・鉄道との快適な乗り継ぎ環境を整備し、車に依存せず、便利でより多くの人々が利用できる公共交通網の形成を推進します。
- ・春江支所やJR春江駅など多くの人々が利用する公共施設を巡回するコミュニティバスの運行を継続します。
- ・また、利用ニーズや利用状況を踏まえながら、運行形態の見直しなど、利便性の向上や効率性の維持を図ります。

5 . 今後のまちづくり方策の検討

都市再生整備計画の課題	達成状況		継続・改善の基本の考え方	想定される事業
地域の玄関口としてのJR春江駅周辺整備や交通結節機能の強化	達成されたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR春江駅周辺の道路整備により、歩行者・自転車等の安全性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、駅前周辺の道路整備を行い、歩行者・自転車等が安全・安心に通行できる環境を整備する。 ・ 地域の玄関口にふさわしい、魅力的な駅舎及び駅前空間を創出する。 ・ 公共交通の利用促進に向け、公共交通利用者等が安全かつ円滑に乗り継ぎできるよう、交通結節機能等を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR春江駅舎改修事業 ・ 駅前広場（ロータリー）の整備 ・ 歩行者シェルター設置事業 ・ 駐輪場の整備 ・ JR春江駅前公園再整備事業 ・ 市道側溝等改修事業 ・ 坂井市「空き家情報バンク」制度 ・ 住宅の建設・改修等補助事業 ・ 清掃ボランティア等との連携 ・ コミュニティバス運行事業
	残された未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の玄関口にふさわしいJR春江駅舎及び周辺整備 ・ 雨にぬれずに移動できる歩行者シェルターの設置や、送迎車両等の交通を適切に処理するための一般車乗降場等の整備、鉄道とバス・タクシーの乗り継ぎ機能の強化など、公共交通の利用促進に向けたJR春江駅の利便性の向上 		
地域住民交流の中心となる交流施設の整備	達成されたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の春江中公民館の建替工事による耐震化、バリアフリー化に加え、地域コミュニティの拠点となる春江中コミュニティセンターの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春江中コミュニティセンターを中心に地域住民が交流し、地域に誇りや愛着をもって住み続けられるような地域づくり、まちづくり活動を継続的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり支援ソフト事業 ・ 協働のまちづくり事業 ・ まちづくり懇話会 ・ コミュニティバス運行事業（再掲）
	残された未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 		
JR春江駅を拠点とした回遊ネットワーク等の整備	達成されたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内誘導サインの設置により、春江中コミュニティセンター周辺の拠点施設への誘導性が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR春江駅利用者や地域住民等が歩いていくことができる交通環境を整備する。 ・ 案内板や屋外休憩施設等を設置し、歩行者の回遊性を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回遊ネットワーク整備事業 ・ サイクルトレイン ・ 屋外休憩施設設置（ポケットパーク・ベンチ・木陰等） ・ 案内誘導サイン設置事業 ・ 観光、交通、宿泊等の関係者が含まれるDMO坂井観光局との連携 ・ コミュニティバス運行事業（再掲）
	残された未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR春江駅を拠点とした回遊ネットワーク等の整備 		